

2014年12月19日

国土交通大臣 太田 昭宏 様  
九州地方整備局長 岩崎 泰彦 様  
立野ダム工事事務所長 島本 卓三 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島 康  
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也  
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 平野みどり  
代表連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康  
電話 090-2505-3880 FAX 096-354-2966

## 立野ダム仮排水路トンネル着工に対する抗議文

11月26日、立野ダム仮排水路トンネル工事の安全祈願祭が行われたと報道されました。住民に対し何の連絡もなく、報道機関にさえも伝えずに、また6月4日に提出した抗議文で要請した住民向け説明会も一切開催せぬままに、11月初めにすでに着工していたことに、強く抗議します。

くしくも、11月26日から、阿蘇が火山活動を活発化しています。火山地帯に巨大なコンクリートのダムをつくって本当に安全なのか、国土交通省は自信を持って説明できるのでしょうか。

なぜ立野峡谷で外輪山が切れたかという、外輪山の中で最も地盤が弱かったからだと考えられます。そのような場所に巨大なダムをつくって、はたして安全なのでしょうか。

立野ダム建設予定地右岸の地盤は、阿蘇火山から流下してきた立野溶岩です。一方左岸は、右岸側とは全く違う先阿蘇火山岩類による地盤です。立野峡谷一帯には、多くの断層が集中しています。立野ダムが完成したあとに、阿蘇の地震活動が活発になり、断層が動いて、ダムの右岸と左岸で地盤が違う動きをした場合は一体どうなるのでしょうか。

立野ダムは洪水調節専用の穴あきダムですが、洪水のときに、ダムの穴が流木や岩石などでふさがるので、洪水調節不能の危険な状態となります。また、洪水時の白川の水は多くの火山灰を含みます。白川にダムを造っても土砂や岩石、火山灰などで埋まってしまうことは明らかです。

ところが国土交通省は、「立野ダムの穴をふさぐ流木は、ダムの水位が上がると浮き上がるので、ダムの穴はふさがらない」「立野ダムにたまった土砂は、ダムの水位の低下とともに下流に流れるので、ダムが土砂で埋まることはない」などと立野ダムホームページに掲載しています。そのような説明では全く納得できません。

立野ダム事業が多くの問題を抱えている点は、これまで何度も提出しました要望書等で述べたとおりです。蒲島知事も熊本県議会において「立野ダムについては、国土交通省に説明責任を果たすよう求め続けます」と発言しています。立野ダム事業についての説明責任が全く果たされていない状況の中、仮排水路トンネル工事に着工したことに対し強く抗議するとともに、下記2点について、再度強く要請します。

### 記

1. 白川流域の市町村ごと、熊本市にあつては白川沿いの中学校区ごとに立野ダム事業に関する説明会を開催すること。その際、住民の質問については真摯に回答し、住民の意見を十分に聞くこと。
2. 上記説明会が開催され、国土交通省が立野ダム事業についての説明責任を果たすまでは、立野ダム仮排水路トンネル工事を中断すること。

以上